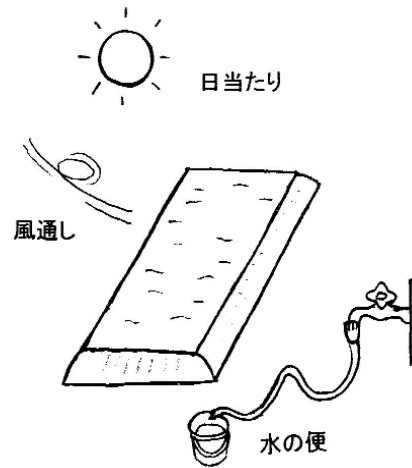


畑の準備

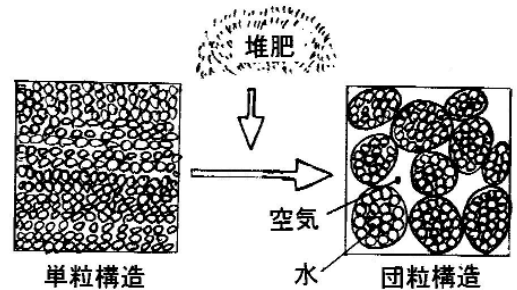
○ 場所の選定

- ・ 日当たりと風通しがよい所を選びます。
- ・ 水はけがよい所が理想ですが、水はけが悪い土地では、うねを高くしたり、排水路をつくって、土の中に水が停滞しないようにします。
- ・ 作業や収穫に便利である所を選びます。特に、かん水は頻繁に行う必要があり、水の便がよいところが理想です。



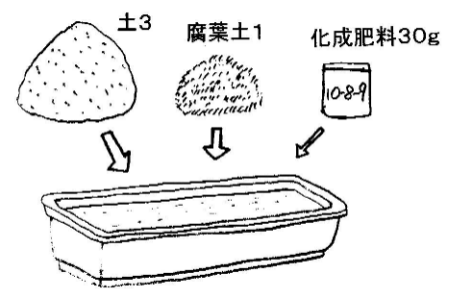
○ 土づくり

- ・ 排水がよく、水保ちや肥料保ちの良い土とするために、腐葉土や堆肥を入れて、肥えた土とします。
- ・ 野菜の多くは酸性に弱いので、酸性土壌の場合、苦土石灰を施し(10 m²あたり 1~2kg)、酸度の矯正を行います。ただし、さつまいもは酸性を好むので、苦土石灰などのアルカリ資材は施しません。また、キャベツ・はくさいなどの結球野菜やだいこん・かぶなどの根菜類は、土がアルカリ性になると芯が黒くなる障害が出やすいので、苦土石灰は少なめに施用します。
- ・ 作物の生育には、窒素(N)・リン酸(P)・カリ(K)のほかに、いろいろな要素が必要となります。しかし、堆肥が入って肥えた土には微量元素などの養分が含まれているので、本マニュアルではミネラル分の肥料については記載していません。もし、土作りが不足していて、要素の欠乏症が出た場合は、いろいろな成分の入った液肥を葉や茎に散布して下さい。



容器栽培

プランターや大きめの鉢でも、野菜づくりができます。土は市販の用土を使うか、図のように、腐葉土と肥料を混ぜて作ることもできます。



容器栽培に向く品目

ねぎ、ほうれんそう、しゅんぎく、こまつな、パセリ、かぶ、えだまめ、トマト

不向きな品目

はくさい、キャベツ、だいこん、にんじん、さつまいも、きゅうり、なす、スイートコーン
(これらの品目の中でも、小型の品種や早取りする場合は栽培可能となります。)

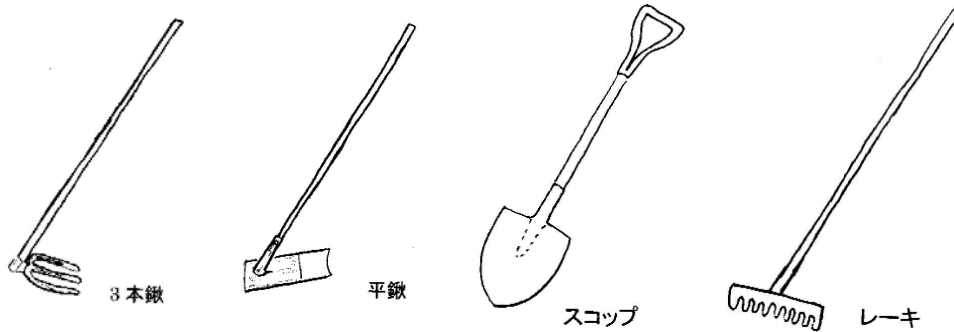
種苗や資材の準備

- ・ 種苗や資材は農協、ホームセンター、園芸資材店などで購入できます。

あれば便利な用具・資材類

畑を耕したり、整地するため、最もよく利用されるのは鍬です。鍬 1 本で多くの作業ができます。深く耕す場合は刃と柄の角度が大きいもの、うねを上げたり、地ならしをするには角度の小さいものが適しています。平鍬は溝を切ったり、うね上げに使います。

スコップは深く耕したり、植え穴を掘るために使います。レーキはうねの表面をならしたり、土を砕くために使います。株間の除草・中耕や雑草集めにも便利です。



その他、移植ごて、鎌、はさみ、ふるいなどの小農具類もあれば便利で、バケツやじょうろなどのかん水用具も必要です。



栽培用支柱やトンネル支柱、保温や雨よけ用のビニール、防虫用のネット、草を抑えるためのポリマルチなども作物によっては必要となります。

